発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　境　攻

悪質な會社の出方
処分撤回と闘う二瀬労組

日鉄二瀬労組高雄二坑支部では、繰込前の情宣にさいして作業開始が二十分から三十分おくれたことで、会社は組合にたいし通告書を提出するなど、一方的に組合活動の制限を狙つてきた。支部では五月十六日通告書の即時撤回と会社の釈明を求めるため、入坑前に抗議大会をおこなつたところ、入坑が一時間おくれた。ところが七月十七日、突如会社はこの入坑遅延について高野支部長ほか四名に、徴戒解雇、出勤停止の処分を組合に提示してきた。いらい二瀬では闘いがつづけられているが、この闘いはいま炭労の闘いへと発展してきた。

組合の骨抜きを

日鉄には二瀬労組（三・四〇〇名）のほかに、全炭鉱加盟の伊王島（一・〇〇〇名）、北松、中立系の鷹穂（一・五〇〇名）の三炭坑があり、二瀬労組はただ一つの炭労加盟である。

二瀬労組高雄二坑支部では、去る五月十四日、一番方入坑前に繰込場、機械工場で衆議院選挙闘争、賃闘の報告、教宣をおこなつたが七時の作業開始が約二十分ほどおくれた。会社は現場に労務係長を配置して、はやくやめるようにとの通告を数回にわたつてやつたが組合は過去の慣例や組合活動の観点から、まつたく不当であると続行した。

ところが会社は、あくまでも時間内の組合活動の禁止を主張、翌十五日には「就業時間中の組合活動について」と称する鉱長名の文書を高雄二坑支部長あてに提出するという強腰である。この通告書でこんど、こういう問題がおきたら賃金カット、責任者の追求をおこなうと主張してきた。全く一方的に組合活動を制限しようというのが会社の狙いなのである。

労務係長を配置

支部ではただちに支部委員会をひらき、会社通告がいままでの慣行を破るものであり、組合活動に制限をくわえ、組合運動の骨抜きをたくらんでいるとの結論をだし、通告書の即時撤回、会社の釈明の抗議をきめた。同時に本年四月より会社が繰込場などに労務係長や係員を配置してきたことについても抗議と撤回をきめたのである。

こうして翌十六日入坑時、坑口検身で人車をとめ、通告についての会社の釈明を要求し、約二五〇名の組合員は坑口前に座りこんで抗議した。鉱長、労務係長は入坑を指示するだけで、組合員の要求に答えようとしなかつたため、約一時間にわたつて入坑がおくれた。そのご、組合本部から中本局長もきて交渉をおこない (1)労務係員がくることはやり方の中でカバーする (2)一時間遅延は昇降を一時間おくらせる (3)事態の責任は追求しないとはいわぬが、善処するという諒解のもとに解決した。

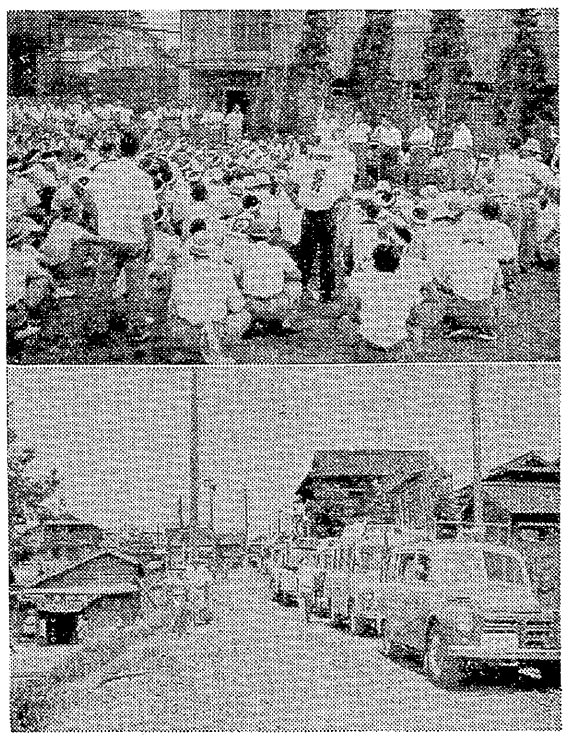
前言をひるがえす

そのご会社は前言をひるがえして責任の追求をはじめ、七月以降数回にわたつて支部賃闘委員会の開催を要請してきたが、組合は約束違反であるし、組合活動への不当介入として無視してきたが、七月十七、十八の両日、賃闘委開催に応じたところ、会社は就業規則違反として高野支部長、糸洲朝男氏（当時本部委員）を徴戒解雇、馬場勝、矢野千秋、吉田光春氏（いづれも当時本部委員）に出勤停止十日間を提案してきたのである。組合はこの馬鹿げた会社の言い分について一応会社主張をきく程度にとどめ引きあげたのであつた。

悪質な差別待遇

さきにも記したように二瀬のみが炭労系であり、組織もガツチリしているので労働強化の排除などで他の三山より、能率も二・三トン低く、会社は何とかしてここの組織を骨抜きにしようと目論んでいた。これが本年五月ごろから目にみえて組合活動の妨害にのり出してきていることをみても、あきらかである。さきの期末手当についても悪質な組織分断工作をおこない、他の三山には二二・〇〇〇円を支給したが二瀬には二一・〇〇〇円しか支給しなかつたり、また特別慰労金を二瀬のみに支給しなかつたり、目にみえて挑戦をみせだしている。

こういうことから検討の末、二瀬労組独自の力で排除することをきめ、いらい団交をかさねている。また中央でもこの闘いを炭労全体の闘いとして取組むことをあきらかにし、具体的に闘いをすすめることをきめるにいたつた。



（上）工場前で青空団交をひらき幹部を吊し上ぐ
（下）応援にきた友山のニュースカー

青空団交で連日抗議

組合では七月三十一日本部委員会で、団交をもちスト権を確立して闘うことをきめ、団交を申入れた八月六日第一回団交、七月十一日無記名投票によりスト権を確立、いらい八月二十日、二十七日、九月三日と団交をつづけられている会社はあくまでも賃闘委員会もちこみを強力にすすめようとしていて誠意をみせていない。

九月三日には昇坑時約一、〇〇〇名がデモを敢行、次長、課長、係長をよびだし青空団交をひらき四時間にわたつて吊しあげた。一方主婦も会社の一方的なやり方に激昂、九月四日に会社幹部と青空団交をもつたが、会社は五名の処分は当然だとうそぶくさまで、一向に態度をかえようとしていない。また、団交と併行して支部ごとにデモを組織して大衆抗議をおこなうとともに、決起大会をひらき炭地協の動員がおこなわれている。こういうもりあがりのなかで、会社が処分をおこなうときは、直ちに実力行使をとり、完全撤回まで断固闘うとの決意をかため、家族ぐるみの闘いに万全を期している。

相つぐ実力行使

九炭労飯塚支部の職場闘争が十五日ストに発展、激しい闘いのあとなまず田二十三日以降実力行使、なまず田一坑二十四日より四十八時間スト、西杵十七日二十四時間スト、崎戸十七日第一波四十八時間スト突入、高島十八日より四十八時間スト、上山田十七日二十四時間スト突入とあいついで職場闘争の実力行使がおこなわれている。このほかにも古河四山の基準外要求闘争などがあり、職制と対決した闘いが全山をまきこむ行動に発展している。なまず田は福利厚生、職場要求、崎戸はホーベル導入による条件闘争、高島は福利要求とつぎつぎと闘いをおこしている。

× × ×

前進
現情勢を直視せよ！

この春の賃闘でわれわれは、独占資本の構えが「賃率」の上下をはるかに越えた階級対立の政策で一貫されていたにもかかわらず、労働組合側の視野はいかにも狭くいわゆる経済闘争に終始して、たたかいの本質を大衆的につかむことができなかつた、と自己批判したのである。

しかも、その後の経過は、独占資本や反動政権の「組合弾圧」が異常に激しいものであることを立証して余りあり、と断ぜざるを得ないものがある。

たとえば、働く者を第一に尊重する立場からの勤務評定反対闘争に対する各地での切崩し・脅迫・暴行などは、占領下におけるかつての二・一スト当時に似た異常さであつたが、たとえ「早退」が中止されたとはいえ反動教育を阻止するたたかいはまさにこれからなのである。

また、三池の主婦会がすでに何度もオルグした熊本県下の日産鏡労組にも二十日遂に「指名解雇」が強行され、わが三池からの辻（本部）、堀川（製作）両オルグが第二組合の暴力とたたかつている名古屋の王子製紙闘争もますます激化し長期化の様相を帯びるに至つているし、日鉄二瀬の活動家に対する不当解雇反対闘争も全炭労の統一闘争として組み上げられようとしている。

一方、わが三池においては、八月初めいらい難航を極めている「機械化・合理化交渉」が大詰めにあるし、賃金展開のための「賃金専門委員会」の発足が近々の予定であり、組合としての政治中闘たる「政治局員候補」も今月末までに決定されることになつており、明治校区の水害対策も組合運動として推進されることになつた。

当面するこれらのたたかいのさ中に、二十五日からは炭労大会が二十九日には大地評大会が開催され、不況下といわれる石炭産業の労働者としての今後の諸闘争や、三井財閥の発生拠点たる大牟田におけるわれわれの構えが決定されるわけである。

すなわち、再言するまでもないくらいの独占資本の異常な攻勢をハネ返しつつ、財閥復活に備える地域ぐるみのたたかいを推し進め平和と民主主義を職場・居住区から守り高めるためには、今後の諸闘争を、単純な「ものとり」的経済闘争にとどめることなく、より次元の高い階級闘争としての巾広い政策でうら打ちしつなぎ合わせることが、緊急な課題である。

われわれは一一三日企闘いらいちようど六年目を迎える今日、「組合の強さはせいぜい三乃至五年しかつづかない」という不文律を今こそ自力で叩き破るべきである。

このようなわれわれの決意を、行動として実践するためには、指導部はその指導性を高め、職場分会はその大衆闘争力をさらに点検・強化しなければならないが、なによりも「組織の現状」の把握と直視が先決であろう。

「組織づくり」とは、各人・各職場における毎日のたたかい自体なのである。

全労先頭にピケ破り
辻オルグよりの現地ルポ

王子製紙の闘いは会社がロツク・アウトを宣言するなど、いよいよ熾烈な段階に突入した。総評も全面的な支援態勢を確立して闘争支援に立上つた。闘いは分裂と弾圧のなかで苦しい様相をしめしており、少しの楽観もできない情勢だが、名古屋工場で炭労オルグとして活躍している辻総務部長から、現地のもようをつぎのように伝えてきた。

欲しいピケ増員

昨日（十四日）午前五時五十五分花火の合図で全員招集、私たちは六時十分組合本部へ到着したがすでに組合員、主婦会の半数以上は集まつていました。

午前七時、全員部署につく。午前八時に名古屋駅前の旅館からトラツク三台、バス三台が出発したという知らせで緊張した。九時ごろ鉄帽をかぶつた港湾労組員（全労）がトラツクにて正門に向いました。つづいてバス三台、第二組合員をのせ正門に向い、正門前でピケと衝突、男一名、女二名が負傷しました。港湾労組員約三百名は力が強く、鉄帽で押してくる。全く暴力団です。工場の周りが一里半もあり、ふつう閉鎖できる門は何カ所もあり、ピケ要員も分散して全く数が少く困つています。

この日午前十時、第二組合員は正門、社宅門でピケ隊が衝突しているスキに、組矢を先頭にピケのうすい塀をのりこえて約二十名が入場しました。この日ピケ隊十名で第一組合員一名が負傷しました。市中ではやくも第二組合のニュースカーが、一八〇名入場し工場を再開していますと宣伝をはじめました。執行部で調べたところ東京本社派遣者をふくめ五十名ほどとわかりました。ちようど十四日は休日で仲仕を全部廻したそうです。全労の執行部が先頭になりピケ突破を実行しています。

主婦も終日活躍

わが方は第一組合員八百名、内女二百三十名、主婦会員二百名、オルグ炭労三十五名、その他紙パ二、三十名、愛労評二、三十名ぐらい計千七十名ほどで、門の警戒は水源池をふくみ八カ所、しかも組合員は二交替で半減されます。人員の少いのに全く困つています。主婦会は毎日朝八時から夜の九時すぎまでピケに参加、或いは飯の炊きだし、ビラはりと一家総動員の闘いです。悲しいことには社宅内の脱落者です。これが一番打撃です。だが私たちがきてからはでていません。私たちも社宅に毎晩十時ごろまでいます。旅館での食事は十一時すぎです。

十五日、水源池に執行吏がくるというので午前六時現地に到着。組合員百名、炭労オルグ二十五名、紙パ三十名、愛労評三十名でピケをはりましたが、今日はきませんでした。明日から愛労評より毎日百五十名オルグを派遣するそうです。本日九時ごろから工場内の煙突より煙がでています。なお、本日会社はロツク・アウトを宣言しました。

【写真】上、第一組合員と第二組合員の衝突。中、組合脱落者と悪質分子の掲示。下、つるし上げをする女子組合員。

市内をデモる
第二組合員

いまのところ第一組合員は頑張つています。昨日から第二組合および職員組合が活ぱつで市内や工場附近をデモつています。いまのところ警官もきませんが、署に四個小隊が集結しているようです。明日も午前六時には現地につきます。現地の執行部は炭労のオルグをひじように頼りきつています。いま夜の十二時五十分です。明日の作戦会議です。

× × ×

以上が辻オルグよりよせられた現地ルポでした。第一組合員を中心に愛労評、オルグが一丸となつて連日ピケ破りと対決していますが現地では日一日と団結をつよめているそうです。

交渉進展なし
機械化20日に交渉

機械化交渉は最終段階で難航、十一日午前零時十分交渉はついにまとまらず物別れとなり、交渉団は交渉を打切つて全員引揚げた。その後、十二日の夕方にいたり会社側から解決のための再開申入れがあり、組合としては十三日の戦術委員会で態度を決定、十四日午後十時にいたるまで代表者会議で鋭意交渉をすすめたが、基本的な進展はなくふたたび物別れとなつた。

その後、会社は二十日午後四時にふたたび交渉再開を申入れ、二十日午後七時から交渉をおこなうことになつた。

殉職者慰霊祭

昭和三十三年度三池炭鉱殉職者追悼法会は、来る九月二十七日午前十時から三鉱体育館でおこなわれる。

追悼者は一、三、七、十三、十七、二十五年の各年忌該当者二五五霊である。

内訳は一年忌（五霊）三年忌（十四霊）七年忌（三十二霊）十三年忌（百二霊）十七年忌（八十霊）二十五年忌（二十二霊）